

製品名: INSL3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12624**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	INSL3 RLF RLNL
別名	Insulin-like 3 (Leydig insulin-like peptide; Ley-I-L; Relaxin-like factor) [Cleaved into: Insulin-like 3 B chain; Insulin-like 3 A chain]
遺伝子 ID	3640.0
SwissProt ID	P51460
免疫原	AA 範囲: 10-50 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

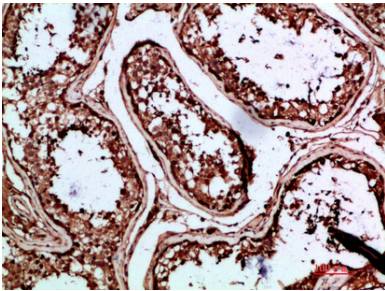
背景

この遺伝子は、インスリン様ホルモンスーパーファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は主に生殖

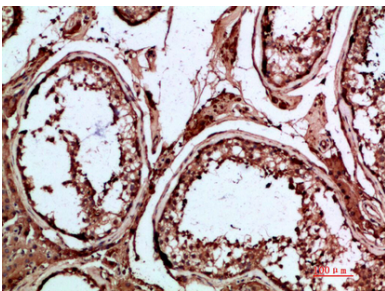
腺組織で産生されます。マウスの対応遺伝子の研究では、この遺伝子が泌尿生殖路の発達と女性の妊孕性に関与している可能性が示唆されています。また、このタンパク質は精巣導部の成長と分化を制御し、腹腔内への精巣下降を媒介するホルモンとしても作用する可能性があります。この遺伝子の変異は停留精巣につながる可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2012年5月]疾患: INSL3 の欠陥が停留精巣の原因であると思われます[MIM:219050]。停留精巣は、精巣下降障害としても知られています。これはヒトで最も頻繁に発生する先天異常の1つであり、男児出生の2~5%に関与しています。停留精巣は、不妊症や精巣癌のリスク増加と関連しています。停留精巣の原因となる INSL3 遺伝子変異の頻度は低い。機能: 精巣機能に関与していると考えられる。胎児期における精巣下降に関与する栄養ホルモンである可能性がある。LGR8 受容体のリガンドである。類似性: インスリンファミリーに属する。サブユニット: 2つのジスルフィド結合で連結された B 鎖と A 鎖のヘテロ二量体。組織特異性: 出生前および出生後のライディッヒ細胞で発現する。黄体、栄養膜、胎膜、乳房にも認められる。

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された